

# 東臼杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年11月 東臼杵農林振興局  
(東臼杵北部農業改良普及センター)

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
  - 1 令和7年度女性農林漁業者ネットワーク交流会に参加
  
- II 主な普及指導活動等の取組
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 2～5)
    - [総合プロジェクト関係]
    - [専門プロジェクト関係]
  
  - 1 【総合1】就農相談の対応
  - 2 【総合1】新規就農者に対する巡回支援
  - 3 【総合2】高温耐性品種候補の南海189号等の水稻収量調査の実施
  - 4 【総合2】水田農業のネットワーク拡大等に向けた延岡地域稲作研究会の支援
  - 5 【専門1】子牛セリ市にて研修会を実施
  - 6 【専門2】販売対策のための日本茶AWARD出品対策研修会に参加
  - 7 【専門3】たまねぎの全自動移植機による定植を支援
  - 8 【専門4】北川町しきみ部会柚陸支部定例会に参加
  - 9 【専門4】管内施設花き生産者の個別巡回を実施

## I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

### 1 令和7年度女性農林漁業者ネットワーク交流会に参加

17日、宮崎市のJA・AZMホールにて、標記交流会（主催：宮崎県農山漁村女性会議、宮崎県）が開催され、東臼杵北部地区女性農業者サポート協議会から2名と、管内関係機関2名が参加しました。

はじめに、宮崎県農山漁村女性会議の各団体による活動発表が行われ、昼食の後、8名程度のグループに分かれて意見交換会が行われました。参加者は、酪農、林業、漁業等の異業種の女性の活動を知り、仕事との向き合いかたの参考になったようでした。また、意見交換会では農林漁業に関するだけでなく、家族との関わり方等も含めて活発に意見交換されており、とても有意義な時間となったようでした。

今後も、女性農業者の資質向上やネットワーク強化の支援を継続していきます。



開会式

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合プロジェクト関係]

[専門プロジェクト関係]

#### 1 【総合1】就農相談の対応

30日、就農希望者に対し、JA延岡地区本部にて、市、JA、振興局の担当者と連携して相談対応を行いました。

相談者は、畜産での就農を希望しており、既にJA畜産振興課にて就農前の研修及び就農先について調整されていましたので、就農までの流れや研修中及び新規就農後に活用できる事業や資金等について説明しました。相談者は、就農に向けた流れや活用できる事業について、概ね理解された様子でした。

今後も、関係機関と連携して相談者の要望に対応し、就農希望者の確保に努めます。

#### 2 【総合1】新規就農者に対する巡回支援

6日、新規就農者育成総合対策経営開始資金（国）、農業次世代人材投資資金（国）を受給している施設野菜農家2名に対して、市、振興局、普及センターの支援チームで、営農状況の現地確認を行いました。

営農状況の聞き取りの結果、2名とも営農意欲が高く、目標所得の達成に向け、経費削減や労働力の確保に取り組まれていることが確認されました。今年度の栽培が始まったところですが、これまで順調に生育しているようです。

今後も関係者で連携して、就農計画実現にむけた支援を行っていく予定です。

### 3 【総合2】 高温耐性品種候補の南海189号等の水稻収量調査の実施

5日、普通期水稻収量分解調査を普及センターにて実施しました。

関係機関と協力して調査し、ヒノヒカリの定点調査ほ場の他、奨励品種決定試験、産米協会実証展示ほ、地域課題解決展示ほの12地点、合計15点のサンプルを調査しました。

高温耐性新品種候補である南海189号の調査の結果、収量はヒノヒカリと同等以上、等級は1等という成績となりました。食味分析でも、スコア80以上と他品種に比べ高い成績となりました。栽培した生産者も手応えを感じており、今後有望な品種という意見がありました。ヒノヒカリと比べて出穂・収穫がやや遅くなるため、作期分散といった活用が期待されています。

今後、調査した結果を生産者に情報提供を行い、新品種の普及や技術対策に活かしていきます。



収量調査

### 4 【総合2】 水田農業のネットワーク拡大等に向けた延岡地域稲作研究会の支援

19日、普及センターにて、延岡地域稲作研究会第2回役員会が行われ、ネットワーク化や技術向上に向けた研修会と先進地視察研修についての検討を行い、事務局（普及センター）として、助言等を行いました。

研究会では、大規模経営に向けた省力化対策や他地域の大規模生産者との交流を積極的に進めてますが、協議の結果、1月に主食用米新品種の食味試験や農薬に関する研修会、2月に大規模生産者や農研機構の視察研修を実施する予定となりました。

普及センターとしては、研修を通して、大規模生産者とのネットワークづくりや新技術の普及を行っていきます。

### 5 【専門1】 子牛セリ市にて研修会を実施

20日、21日の2日間、延岡家畜市場において、11月期の子牛セリ市が開催され、セリ前の研修会にて北部普及センターから寒冷対策及び尿石症対策についての情報提供を行いました。寒冷対策では、牛舎環境の工夫や飼養管理での注意点について、説明を行いました。生産者からは、「推奨するヒーターが良いのはわかるが、価格が上がっている」との意見があり、資機材価格の高騰に苦慮している状況が窺えました。

今後、普及センターとしては巡回等とおして、これらの寒冷対策や尿石症対策が促進されるよう支援を継続していきます。



子牛セリ市



## 6 【専門2】販売対策のための日本茶AWARD出品対策研修会に参加

11日に日本茶AWARD研修会が中部農業改良普及センターにて開催され、北部農業改良普及センターの茶担当職員が研修会に参加しました。日本茶AWARDとは、全国規模の仕上げ茶の消費者参加型のコンテストであり、荒茶を評価する全国茶品評会と異なり、実際に販売される茶を評価する点で近年注目が集まっています。

普及センターでは、販売対策に繋がることから日本茶AWARDに向けた出品推進を行っており、その一環で研修会に参加しました。研修会では県内各産地の生産者が参加し、実際に日本茶AWARDの各部門で上位入賞した賞品の試飲や入賞実績の高い茶商による講演があり、活発な意見交換が交わされました。

現在、延岡市の茶生産者数名が日本茶AWARDに出品見込みであり、今回の研修を受け、管内において対策研修会を今後企画する予定としています。



出品茶の審査

## 7 【専門3】たまねぎの全自動移植機による定植を支援

15日、延岡市差木野にて、たまねぎの全自動移植機による定植を農業者、メーカー、普及センターの6名で実施しました。

全自動移植機を用いて効率的に定植を行うためには、欠株の少ないセル育苗が必要であるため、雨よけ栽培等の実証も併せて行っております。

今回の定植作業でもセル苗の欠株が多く補植に労力を要したため、欠株の少ない育苗技術は必須であることを、農業者とともに再認識しました。

今後も、たまねぎの機械化体系の確立に向けて実証やデータの蓄積を行い、より効率化されたたまねぎ生産が行えるように支援を行っていきます。



全自動移植機による定植作業

## 8 【専門4】北川町しきみ部会柚陸支部定例会に参加

19日、北川町柚陸地区集会場にて、生産者7名、関係者3名が参加し、北川町しきみ部会柚陸支部定例会が行われました。

普及センターから、近年シキミ栽培で問題となっている「挿し木」（活着率の低下）に関して、一般的な方法を説明した後、シキミでの挿し木の現状や生産者の意見を聞き取りました。またドローン防除の委託を希望する時期の確認を行ったところ、盆用出荷で忙しい8月初めをお願いしたいという意見が出されました。挿し木については今後個別に現状把握を進め、活着率の改善を図るための支援に取り組みます。

北川町のシキミは12月中旬から年末にかけて出荷の繁忙期を迎える予定です。



定例会での意見交換

## 9 【専門4】管内施設花き生産者の個別巡回を実施

6日、管内施設花き生産者4戸の個別巡回を専門技術員と連携して実施しました。

ホオズキ生産者2戸の巡回では、地下茎の確保を目的としたホオズキの生育状況について確認をしました。スイートピー生産者2戸の巡回では、スイートピーの生育状況や生育の見るポイント等について確認をしました。今後の対策促進に向け、生産者と栽培上の重要ポイントの共有化が図られました。

今後も引き続き、個別巡回を実施しながら生育状況について注視し、支援を継続していきます。



巡回の様子